許せぬ不當首切り

鈴木委員長ら 闘争支援で來山

三池闘争支援のため社会党鈴木委員長をはじめ、国会議員団九名は十九日に大牟田入りした。駅頭広場での歓迎大会にのぞんだ鈴木委員長は〝三池の闘いは会社の思想的な攻撃であり、社会党は全力を挙げて闘争を支援する〟と声明、このあと四山講堂、緑ガ丘講堂での歓迎大会に出席して闘争支援の演説をおこなった。

思想的攻撃だ

この日鈴木委員長はじめ佐多忠隆、藤原道子、吉田法晴、阿具根登、小柳勇の各参議院議員、田中稔男、高井義高、多賀谷真稔ら衆議院議員の社会党国会議員団九名は、午後二時半大牟田着の西鉄急行電車で来牟した。

駅前広場にはやくから組合員、主婦千五百名が、鉢巻姿で氷雨の中に一行を待ちうけていた。

到着と同時に直ちに歓迎大会となり、ニュースカー上に姿をあらわす鈴木委員長に、はげしい拍手の嵐がうずまいた。

「会社は企業再建の名のもとに思想的な攻撃をかけて、組合分裂を策しています。そしてロック・アウトをしかけようとしています。先制的なロック・アウトは違法であり敵の敗北でもあります。わたしたちは不当なロック・アウトをさせないためにやって参りました」と会社の不当をなじり、こんど強力な闘いに立上るよう激励したちょうどこの日は、反動宰首相が国民の切実な声をおし潰して、新安保条約に調印する日である。

鈴木委員長の挨拶のあと、灰原書記長はアイゼンハワー大統領あての抗議文を読み上げ、ただちにこれは郵送されることになった。

駅頭の観迎大会で挨拶する鈴木委員長

党の全力あげて支援する

歓迎大会のあと組合本部の記者会見にのぞんだ鈴木委員長一行はつぎのように語った。

鈴木委員長談

社会党では三池闘争支援のためひきつづき学者、文化人などを現地に派遣する。

とくにたんどの首切りには沢山の社会党員が含まれている。これは政治結社の自由を踏みにじるもので憲法違反であり、専門の学者を送ることにしている。

ロック・アウトは今までの例からいっても会社の先制的なものは、すべて敗訴になっている。そういう意味で憲法学者、法律家に来て貰うようにしている。

佐多議員

今日荒尾では社会党の九州ブロック会議をもったが、三池の問題を中心に論議した。

三池の資本家は組合活動家に攻撃をかけて来ている。これをもつと国民にアッピールする必要があり、そのためスライドなりいろんな方法で、来るべき大行進の中で村から村へ、町から町へ徹底して周知させて行く。

国会でも首切りは絶対に許すことはできないとして院内闘争をくりひろげて行く。

また、社会党員が首切られたからその人たちだけを支援するということではないのでその点は間違わないように理解してほしい。

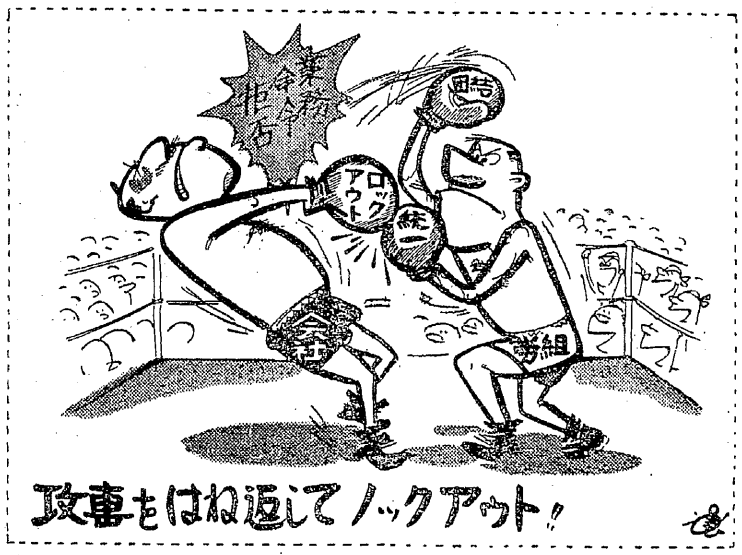
総評はカンパで支援していますが、党としても物心両面から支援します。

田中議員

こんどの首切りが、たんなる経済解雇でなく政治解雇、思想解雇であることは憲法違反だ。

ロック・アウトにしても攻撃的なものは否定されているし、いろんな批判がある。これは国会でも鋭く追及するが、現地に議員団を編成して、ちかく派遣する手筈になっている。

以上のような談話を発表して、三池闘争に党の総力をあげて立上ることをあきらかにした。



〝安保阻止〟を柱に 各組合春斗に立ち上る

新年を迎えて各組合ともいつせいに春闘の準備にはいっている。〝岩戸景気〟もさることながら、安保改定調印を終えた情勢の中で、ことしの春闘は安保改定阻止をトップスローガンに、二千五百円から三千円台の大幅賃上げ、最賃制時間短縮などの諸要求をかかげて闘われる。多くの組合が今月末から二月はじめにかけての中闘委、臨時大会等で方針を決定するが、全国的な闘いの山は新安保国会審議期の三月上旬―中旬ごろになる見込み。各組合の状況つぎの通り（一月十日現在）

私鉄総連　二月中旬の中闘委で要求内容、日程など決められるが、大幅賃上げと八千円に満たないところはそこまで引き上げる最賃制の要求のほか、協約改定、バス運賃値上げ反対（値上げ決定のとき）などが見込まれている。

合化労連　賃上げはすでに八単組が要求書を出し、一月二十日までに全部の提出を終える。要求が出された中では三池染料（三、四九三円）日東化学（三、一七九円）信越化学（三、八一〇円）日本化薬（二、九一八円）と、そのほとんどが三千円を上回る大幅要求。さらに時間短縮（四四時間、四直三交代）を柱に加え、二月二十日を目標にスト権を確立、三月末を山として実力行使を予定。

全鉱　二月三日―五日に臨時大会を予定現在本部案として考えられているのは、春闘の重点を賃上げ一本にしぼり、作成中の賃金綱領（案）世論調査に基づき成人男子坑内夫三千円を要求。

全印総連　春闘は(1)安保阻止(2)大幅賃上げ（二千円＋アルファ）(3)最低賃金制（十八才―八千円をとくに中小企業の条件引上げで闘う）などを中心に闘う。最終的な決定は二月初旬の中央委員会で行なわれるが、二月中旬までに要求提出を終え、三月中旬を山とする。

紙パ労連　二月十一日の全国委員長会議で春闘方針の大綱を決定した。(1)一月末までに労連大会で確立している安保闘争スト権の批准を終え(2)三月一日の臨時大会に向けて、賃上げ（二、五〇〇円）、不当処分撤回（王子製紙、興人パルプ）交渉を個別に進め、大会でスト権確立のほかとくに時間短縮（四直三交替）をとり上げて闘う。

新聞労連　「安保に反対していく」との統一スローガンの下に朝日、共同、西日本、日経などを中心に賃上げ要求、共同、報知、中国などを中心にした時間短縮（原則として一時間短縮）要求が中心。また傘下五十三組合のほとんどが労働協約改定の交渉にはいる。

電機労連　賃上げ（二、五〇〇円以上）、夏季一時金（年末実績八二、三カ月＋五、〇〇〇円）、時間外手当の増額（現行二割五分を三割へ）臨時工の本工繰入れ、初任給引上げなどを中心要求に、二月二十五日までに要求提出、三月以降本格交渉、中旬以後を実力行使の段階として三月十日までにスト権確立

全造船　賃上げ（臨時工ふくめて二、五〇〇円）、時間短縮（七時間制）の要求を二月二十日までに提出、三月一日回答を要求。詳細決定は二月九、十日の中央委員会。

全国セメント　(1)賃上げ＝平均二千円とし、組合員だれでも最低一、〇〇〇円はふところにはいるようにする(2)最低賃金＝セメント産業から八、〇〇〇円以下をなくす。このほか退職金、臨時工問題をかならめて三月十五日いつせいに要求提出。三月下旬までにスト体制確立。

国公労関係　国公労関係は安保改定阻止、賃上げ、最賃制、時間短縮、社会保障の確立を統一要求として春闘を闘う。スケジュールの大綱は、一月十六日ア大統領へ抗議電報打電、一月二十日の調印日には休憩時間の職場集会、米大使館、政府への抗議を行なう。またこの期間に各単産の要求を整理し、実力行使への体制をくむ。二月二十五日―中央集会（安保、賃上げ）三月中―下旬では安保批准阻止に闘いの重点をおく。下旬以降四月いっぱいにかけ、参院の予算審議時をねらい強力な実力行使。

日教組　賃上げ以上に昨年来の闘いがそのまま春闘に引きつがれる。(1)岐阜県に起こった事務制限が二月ごろ東北全県に打ち出される動きがあるので、これとの闘い(2)二月末―三月にかけて勤評による人事に対する闘い(3)四月末から各県の予算編成期にはいるので教育予算要求の闘いにはいる。細目は十八日―二十日の全国委員長、書記長会議を経て決定。

国鉄労組　賃上げ要求については目下職場討議中（二、〇〇〇円＋一〇％、十八才―一〇、八〇〇円）。本格的な交渉は今月中旬以降。

× × ×

三池の勝利目指し

西日本ブロック 春闘大集会開く

春闘に向つて各組合はいま戦列をととのえているが、総評では今年に入り一斉にブロック別春闘討論集会をひらき、春闘機運の総仕上げをおこなつた。

西日本ブロック春闘討論大集会は一月十五日から四日間、西日本の拠点三池でひらかれた。

各県評、単産代表約二百名は、会場の労働会館で討議したが、期間中の宿泊は、三鉱労組各地域に分散して組合員宅に分宿し、座談会などひらいて闘争の実態を見聞した。

集会は賃闘と三池闘争を中心に活発な論議が交され、全労働者が三池を中心に春闘を展開し、三池闘争の勝利、大巾賃上げ、安保機運粉砕に総力をあげて闘うことを決定した。

なお、総評太田議長も十七日に出席、約一時間にわたつて春闘方針について説明した。

集会最終日の十八日には全体を通じて各代表から意見が述べられたが、その主なものはつぎの通りであつた。

各単産が実力行使態勢作れ

○社宅に宿泊して座談したが、三池が組織の強い面も弱い面もサラケ出して強力に闘つていることには教えられるものが多かつた。

○三池から全国へ逆オルグが出されたが、第二次の逆オルグには予算の関係もあろうが、主婦も入れて貰いたい。

○三池の情宣はかりでなく、安保との関連において、安保の問題ももつと力を入れた情宣を。

○三池にオルグに来て、却つてオルグされた形になつた。全逓が年末にあれほど闘えたのは、三池へオルグに来た人たちが大きな力となつて現場で活動したからだ。

○三池闘争支援のため各種カンパも大切だが、一番大切なのは各単産が実力行使に突入する態勢をつくることだ。

○三池の闘いをたんに観念的にしか理解していないのではなかろうか。労働者の連帯という認識に欠けているキライもある。首切られるのは可愛そうだという理解から、この闘いは自分たちを守る闘いだという方向にもつて行かねばならない。

○組合員の一人ひとりが、資本主義に対する憎しみをもつており階級意識には感心した。

○三池の闘いをたんに観念的にしか理解していないのではなかろうか。労働者の連帯という認識に欠けているキライもある。首切られるのは可愛そうだという理解から、この闘いは自分たちを守る闘いだという方向にもつて行かねばならない。

○組合員の一人ひとりが、資本主義に対する憎しみをもつており階級意識には感心した。

なお、大集会では四日間の討議のあと、つぎのようなアッピールを発表してこんど強力に闘うことを声明した。

全国の労働者へ

われわれ西日本の労働者代表二百名は、一月十五日より四日間、大牟田市において春闘、および三池の闘争に対し、全労働者の力を結集して闘う方途について討論した。

われわれは現在低賃金の中にいて、社会発展の段階からひどくかけはなれた生活をしいられているしかし、この低賃金体制は、われわれが団結して、強力なストライキを組むことによつて打破できるものである。そしてそれのみによつてしか打破できないことをこの討論集会において確認した。

また、この日本資本主義の伝統的政策であり、基盤をなす低賃金体制は、安保改定による日本の核武装化、軍国主義化の基礎であり安保改定は、これをさらに強化するものであるから、昨年以来発展させてきた、全国民の力による安保闘争を、批准段階を迎えていよいよ昂揚させ、この全体的なたかまりの中で、長期強靱な闘争によつて安保批准阻止、大巾賃上げの要求をかちとる意志統一をおこなつた。

さらにわれわれは、三池闘争の現地大牟田市において、まざまざと労資対決の深刻な様相を直視した。そして独占の合理化攻撃が、三池労組に集中し、これに対決している三池労組の姿は、実に全労働者の反合理化闘争の橋頭ほうにほかならないものであることをしつた。

そしてわれわれは、全員三池の組合員兄弟たちの家庭に分宿し、したしく語り合うことによつて、この闘争にもし労働者が破れることになれば、それは日本労働運動に一つの重大な結果をまねくことになるという意義をますます深く認識した。

以上のことから、ここにわれわれは断固として可能なあらゆる手段を動員し、あくまで三池の闘争の勝利のため前進しつづけるとともに、これをさらに春闘における大巾賃上げ、安保改定反対の全労働者の統一闘争に発展させてゆく決意を表明し、併せて全国のはたらく仲間に三池闘争、炭労の首切り反対闘争に対する共闘強化を強く呼びかけるものである。

一九六〇年一月十八日

総評西日本ブロック大集会

オルグの気持で

以上で西日本ブロック春闘討論大集会は終つたが、こんどはこの集会に参加した一人ひとりが、三池のオルグとなつた気持ちで、現場での活動をつづけることを誓い合つた。

四山、緑ガ丘で激励

このあと議員団はニュースカーでまず、四山講堂の歓迎大会に出席し、鈴木委員長はじめ、各国会議員がそれぞれ闘争激励と、こんどの支援を誓い、つづいて緑ガ丘講堂の歓迎大会にのぞんだ。

午後五時半から組合本部で懇談会をもち、ひきつづき鈴木委員長は午後七時から市民会館でひらかれていた社会党安保改定阻止、企業整備反対の大演説会に姿を見せて講演をおこなつた。